

オーガスタのまなざし



主教 小林 尚明

平和についての学び

たまたま立ち寄った本屋さんで以下の言葉を見つけました。「戦争を知っている世代が、政治の中枢にいるうちは心配ない。平和について議論する必要もない。だが、戦争を知らない世代が政治の中枢となったときは、とても危ない」。

丹羽(にわ)宇一郎さんという元中国大使の方が書かれた「戦争の大問題(東洋経済新報社)」という本の中で紹介されている故田中角栄元総理が、新人議員に語った言葉として紹介されていました。早速その本を買って読んでみました。

「沖縄慰霊の日」の礼拝が、6月24日(日)の午後、北谷諸魂教会で行われ、説教を担当しました。「広島原爆逝去者記念聖餐式」が8月6日(月)広島復活教会で行われ、司式を担当し、9日(木)の「被爆73年 長崎原爆記念礼拝」でも説教を担当し

ました。二つの説教を準備するため、「戦争の大問題」が大きな助けとなりました。

丹羽さんは言われます。「現代日本人である我々が、明治から昭和にかけ10年に一度の頻度で戦争をしてきた、好戦的な日本人に戻ることや押しとどめる方法はあるだろうか。戦争を知らない時代に生まれた我々の出来ることはただ一つ、戦争の真実を知ること以外にない」。そして、普通の生活では、よき市民として生活する人たちが戦場という極限状況では、信じられないような、人間が普通には出来ないような行動をすることが書かれていました。そうした戦争の一つ一つの真実を知っていくことが、平和を作り出していく力になることを学びました。

8月15日(水)

周南市で行われた教区第55回中高生大会で、主の母聖マリヤ日の聖餐式の説教を担当しました。マリヤさんのお話と共に、当日が終戦記念日であること、そして日本は絶対に戦争をしてはいけない、ということをして昨年よりは、少し力強く、子どもたちにお話しできた自分がいました。

(神戸教区主教)

日韓聖公会 青年セミナー in 韓国

8月13日(月)から18日(土)まで韓国の竝川(ビョンチョン)、天安地域で「愛から始まる神の正義」というテーマで開催されました。主に三一独立運動についてフィールドワークを行ったり、講演を聞き、シェアリングなどを行いました。



私は広島にいた時、平和公園の碑巡りガイドをしていました。韓国人原爆犠牲者慰霊

碑という碑の説明をする時、「当時日本には朝鮮から強制連行された朝鮮人が沢山いて、日本は被害を受けただけではなく、多くの被害を与えた事も忘れてはいけない」という事を伝えていました。このように、口で説明をする事は簡単ですが、どうもしっくりきていない自分もいたように思います。

今回韓国へ行き、女性の人權博物館で慰安婦の問題を学び、独立記念館で三一独立運動時の状況などを目の当たりにし、街の至る所にある独立運動の記念碑などをまわり、言葉にできないような思いでした。過去とは言っても、人間を人間だと思っていないような扱い、自分たちさえ良いれば何をやってもいいという考え、改めて戦争の恐ろしさを感じた時間となりました。

セミナー中、私が印象に残ったのは、シェアリングの時間です。プログラムを通して感じたことや考えたことを話し合いました。韓国側の視点や日本側の視点、それぞれ考える過程は違っても私たちは神様の愛によって一つの家族であり、お互いに愛し合

い理解し合うことで共に歩んでいけるという意見がありました。もちろん歴史上の出来事は、決して許されないことですが、その感情だけでは何も生まれません。私たちは日本人、韓国人としてではなく、同じキリスト者として歴史を正しく学び、まず「知るところ」が求められていると感じました。

今回このような機会を与えて頂き、学ぶ事のみならず、国境を越えて共に祈る事ができるたくさんの仲間がいる事を感じる事ができました。この素晴らしい環境を与えてくださる神様に感謝し、これからもこのつながりを大切にしていきたいと心から思います。

(神戸聖ミカエル教会信徒)
小林 真綾